

## **チェンジ&チャレンジ！ 情熱と実行力で「津山市政再起動」。** ～安心して暮らせ、未来に希望を持って活躍できる「人に優しいまち津山」をめざして～

津山市は、**財政規模に比べて借金が多く基金が少ない状況**《決算に基づく資料はこちら》。このまま基金が底をつき財政危機に陥ることがないように、**県内最低水準の財政を立て直すことが急務**です。また、全国的な地域幸福度調査の市民アンケート《アンケート結果の資料はこちら》によれば、**津山市民の市行政に対する評価が低く、信頼が失われています**（令和7年調査の全国比較偏差値が32.5で、5段階での市民評価がオール1レベル）。

これまでと同じ、道路やハコモノのハード事業重視の感覚で市政運営を続けていては、より一層、財政の悪化と行政サービスの低下が進み、人口減少や地域の衰退が加速する要因になりかねません。未来につながる投資もできなくなります。

**「ハコモノ重視」から、「市民ファースト」、「市民の暮らし重視」へ。**

市民の皆さんの意見をしっかり伺う中で、**現実の課題を正面から見据え、優先順位を明確にし、責任を持って実行する市政**に変えていかなければなりません、

そこで、まず第一に**現状を「チェンジ」**。

市民目線に基づく**「市役所の抜本改革」**から着手します。

- ①（市長の個人判断でなく）『意思決定過程を透明化』し、客観的データをもとに『オープンな議論を徹底』します。
- ②（市長が「やりたい事業」から）**「市民ファースト」の視点**に基づき、**市民や地域のメリットに繋がる『やるべき事業』**に変換します（ハード事業も、市民の利便性や地域の価値向上につながるものにシフト）。
- ③ **財政改革（財政調整基金など基金の積増と市債額の抑制、契約プロセスの適正化）**と、市民ニーズに対応する**組織改革**を進めます。

続いて、「チャレンジ」。

**人口減少や新しいまちづくり**など、困難な課題に**未来志向で果敢に挑戦**します。

**暮らしを守ることをはじめとした「ケア（支援、福祉）」や皆さんとの「コラボレーション（連携、共創）」**を重視して市政を進めます。

**「3つの全カテゴリー」**をしっかりと念頭に置きながら、未来に向けて、市民の皆さんとともに、**「10の政策」**に取り組み、「**7つのチャレンジ**」に挑んでいきます。

### **◎ 3つの全カテゴリー**

#### **▶ 財政再建で市政改革**

県内でも**最低水準の財政を立て直す**ため、事業を徹底的に見直し。基金を適正に維持し、福祉と地域を重視した**持続可能な市政を実現**。

#### **▶ 大きな課題に正面から向き合う**

**人口減少と少子化**に民官連携で挑戦。**アルネ津山と中心市街地を再生**。美作大学のあり方を**未来のまちづくりと市民目線で検討**。

## ▶市民ファーストの地域発展策で新時代へ

デジタル地域通貨導入とポイント付与、市内企業への優先発注で**経済循環創出**。仕事や活動を応援するチャレンジ津山や地域運営組織で活性化。**市制 100 年を市民の誇りと未来につなげる希望の節目に。**

## 玉置みつたか 7つのチャレンジ！

市民ファーストの「より良い市政」で、「力強い津山（未来に向けて躍動する津山）」を実現

- 1 未来を担う「人が育つ」まち津山にチャレンジ
  - 2 未来をつくる「産業創出」のまち津山にチャレンジ
  - 3 「女性と若者が輝く」まち津山にチャレンジ
  - 4 「医療や福祉が充実」し、地域共生を大切にするまち津山にチャレンジ
  - 5 「防災力強化と都市再生」で、安心して暮らせるまち津山にチャレンジ
  - 6 「歴史と文化」が薫り、新たな地域力を創造するまち津山にチャレンジ
  - 7 「次世代型の市政構築」と多様な連携で活力あふれるまち津山にチャレンジ
- ◎ 私の思い（基本的なスタンス）

（★印：「3つの全カテーマ」や「10の政策」に関連した内容）

### 1 未来を担う「人が育つ」まち津山にチャレンジ

まちづくりの真ん中に子どもを位置づけ、子育て環境と教育環境を充実させ、次世代の人づくりを推進。未来を拓き豊かに生きる人が育つまち津山をめざします。

（新たな取り組みなどの例）

#### ① 個々の多様な能力を伸ばす学びの場の提供

- ・ICTを活用した個別・創造的な学習支援
- ・教職員の負担軽減（ICT支援員や教師業務アシスタントの拡充等）
- ・幼保・小学校連携の推進
- ・自主的に学ぶ姿勢の育成、個々のつまずきへの支援体制の整備
- ・多様性を尊重した「インクルーシブ教育」の実施

★**中学校体育館にエアコンを整備**（災害時の避難所としても活用）

#### ② 地域に思いを寄せ、将来の地域を担う子どもの育成

★**地域で育むふるさと教育**（市民の動画等を活用、地域の体験学習、「未来に伝える津山の魅力ハンドブック（後述）」の活用）…人口社会減対策

- ・学校・家庭・地域の連携強化（地域教育力の向上）、キャリア教育（企業の出前講座の導入）

★**中学生からの起業家教育**（ゆかりのある起業家の講師派遣など）

★文化・スポーツの体験格差ゼロを目指す部活動の地域移行（本物との出会いを通じて子どもたちの夢を育む）

・小・中学生による「子ども議会」の開催と子どもの提案の市政への反映

③ 特別支援が必要な子どもを、成長ステージに応じてきめ細かくサポート

- ・「子ども食堂」や「子どもの居場所」の設置・運営支援
- ・障がい児の包括的な支援強化
- ・ヤングケアラーに対する総合的な支援
- ・児童虐待防止に向けた関係者の連携強化

④ 高校、高専、美作大学と連携した地域づくり

★市内4校連携による地域課題解決策の提案や高校・高専・大学生と若手経済人が一体となった事業化・地域づくり（美作県民局とも連携）…人口社会減対策

★美作大学のあり方を未来のまちづくりと市民目線で検討（市民参加のフォーラム開催など）

## 2 未来をつくる「産業創出」のまち津山にチャレンジ

「地域内経済の循環」を重視した地域産業のサポートを強化。独自の仕事・事業・地域活動を支援する「チャレンジ津山」の展開。新技術の導入などにより、津山の新たな未来を切り拓きます。農林畜産業の振興、「おもてなし観光のまち津山」をめざし、国内外からの誘客を促進します。

（新たな取り組みなどの例）

① 地域経済全体の活力を高め「力強い津山」を実現

★市の事業の地元企業への優先発注（市内団体、福祉作業所へも優先発注）

★「デジタル地域通貨」の導入（商工会議所や商工会など関係者と連携。出産子育て応援ポイントを贈呈、地域活動ポイントを付与、経済対策等にも迅速に対応）

★トップセールスで企業誘致（津山の特長を生かした、防災、物流、IT 関連の企業や事業所を誘致）

- ・広域経済圏の拠点として発展：これまでの岡山連携中枢都市圏に加え、「関西地域との広域経済圏」や「山陰地域との広域経済圏」の拠点として発展  
経済・観光・人流の関係拡大に合わせ、自治体連携を通じた教育交流、森林整備受託や災害時の避難受入など…姫新線等の JR 利用促進にも繋げる

② 「自分を生かして働きたい」をきめ細かくサポート

正規雇用はもとより、子育て世代、高齢者、障がい者の短時間勤務やリモートワークの希望を叶える。

★「仕事（ワーク）チャレンジ津山」の展開

市民の「働きたい」という意欲をサポートし、企業の人材不足を解消。仕事マッチングシステムを導入して、「所得向上」を支援（「地域版ハローワーク」の設置を検討～民間事業者やハローワークとも連携）。

- ★**企業の働き方改革を促進**し、若い世代や女性をはじめ、**全世代で働きやすく働きがいのある環境を市内全体で整備**（求人条件も弾力化し、短時間勤務やリモートワークを導入）
- ・ライフステージや求人ニーズに対応したスキルアップ支援（子育て世代や中高年世代）

③ **「事業チャレンジ津山」の展開**：起業等の新たな取組みを手厚くサポート。

- ★**企業の新事業展開や起業を支援**（起業支援塾の開催や関係者一体での総合的伴走支援）
- ★**企業の新たな販路開拓支援**（PR コンテンツの充実と効果的な発信～専門的な PR アドバイザーを活用）
- ★**（再掲）中学生からの起業家教育**（ゆかりのある起業家の講師派遣など）
- ★**（再掲）高校・高専・大学生と若手経済人が一体となった事業化・地域づくり**
- ★**空き店舗を活用した起業支援（伴走支援の強化など）**
  - ・事業承継へのきめ細かい相談対応（県等とも連携）
  - ・全県、全国、国外に向けて技術力・競争力を高め、事業展開しようとする企業を支援
  - ・脱炭素を新たな価値とする環境経済の創出を支援
  - ・クラウドファンディング型ふるさと納税等の積極導入で、成長分野や社会貢献事業をバックアップ

④ **地域資源を活用した産業の振興**

農林業における「食の自給体制」の支援と「持続可能な森づくり」をはじめ、IT 等を活用して観光資源の魅力アップを図る。

- ★**農作物の生産に専念できる環境づくり（申請書類の事務代行など）**
  - ・農業所得の向上を目指した取組支援（農機具や農薬等の共同購入・共同活用など）
  - ・休耕地や遊休農地の利用促進と耕作者とのマッチング支援
  - ・和牛、ブドウ、小麦など特産品を生かした「食品関連産業」の振興（美作大学とも連携）
  - ・学校給食への地場食材の積極利用と食農教育の推進
- ★**毎木調査の実施による「山の価値の可視化」**
  - ・津山の農林畜産業の魅力発信と担い手確保
  - ・スマート農・林業の導入促進
  - ・「農福連携」の拡大
  - ・ICT を活用した鳥獣害対策（GPS、ドローンなど）
  - ・実効性あるクマ被害への対策（緊急銃猟体制を含む）
- ・「参加体験型観光」の充実と PR 強化（お祭り、農業、自然、文化など）
- ・主要観光ポイントのデジタル案内や津山城址の AR（拡張現実）体験
- ★**「現地決済型ふるさと納税」の導入**（飲食、宿泊、小売業等を支援）
  - ・台湾などインバウンド向けコンテンツ開発と効果的 PR

### 3 「女性と若者が輝く」まち津山にチャレンジ

女性や若者に選ばれるまちになるため、多様なニーズをしっかりと聞いて対応し、自由に活躍で

きる環境を整備して津山への定住を促進。将来への安心・安定感のもと、希望する方が結婚でき、喜びを感じながら子育てできるまち津山をめざします。

～女性や若者が、「居心地がよく、意見が言いやすく、自由に活躍できる地域」の実現～  
(新たな取り組みなどの例)

・「市民アイデアメールボックス」の設置、市長との「コミュニケーション広場」の開催

★子育て世帯への総合的支援～将来的に地域デジタル通貨と連動

第1子から保育料無償化（就学後は給食・教材費の段階的無償化）

★不妊症、不育症治療に対する支援

★（再掲）子育て世代の短時間勤務を支援：「仕事（ワーク）チャレンジ津山」

・「こども家庭センター」の早期開設と機能強化

・AI等を活用した子育て相談対応

・放課後児童クラブの充実（民間事業者への委託も検討）

★市内で働く若者の奨学金返還補助（大学等の奨学金を最大100万円まで支援）

・企業や団体と連携した結婚サポート充実

・固定的な性別役割分担意識の改善

○市役所内に「女性活躍サポートチーム」、「若者活躍サポートチーム」を立ち上げ、関係部局が連携して対応。「女性の総合相談窓口」も整備。

#### 4 「医療や福祉が充実」し、地域共生を大切にするまち津山にチャレンジ

市民が健康に安心して暮らせるために、関係者と連携した医療保健体制の充実やきめ細やかな福祉支援（セーフティネット）により、地域のつながりの中で誰一人取り残さないまち津山をめざします。

(新たな取り組みなどの例)

①地域の医療・保健体制を最重視し、関係者と連携した安心ネットワークを強化

・予防医療や介護予防を進め、健康増進と健康寿命の延伸促進

★エッセンシャルワーカーが働きやすい環境整備（サポート人材の積極採用を含む）

★保育士や介護士などの賃金アップや担い手不足対策、休眠保育士等の短時間勤務の制度設計、加配による負担軽減

・市民の安心感向上と医療従事者の業務軽減を図るため、医療相談アプリや救急用タブレット導入等を検討

②高齢者、障がい者をはじめサポートが必要な方への適切な支援

・包括的な支援システムの充実強化

・アウトリーチ手法やワンストップ対応による支援の提供

★福祉のための「みまもりスマホ」の普及・活用

健康管理や介護の見守り、防災・緊急連絡に活用できるデジタル端末の導入を支援。

高齢者等が安心して暮らせる環境を整え、健康増進ポイント付与などで地域経済の循環にもつなげる。

③「地域運営組織」の設置等による地域共生の基盤整備

★地域の特色と潜在力を活かした「地域運営組織（RMO）」の形成

★「地域活動（アクティブ）チャレンジ津山」の推進：地域の課題を見える化し、地域内外からの協力を得て地域の存続を図る（町内会活動のデジタル化への支援をはじめ、「子どもの居場所づくり」や地域猫対策など、地域の課題に対応する団体への支援を含む）

## 5 「防災力強化と都市再生」で、安心して暮らせるまち津山にチャレンジ

防災・減災の力を高めるとともに、買い物の支援や空き家対策、公共交通の再構築に加え、長年手つかずの中心市街地の機能の見直しなどに正面から取り組み、あらゆる世代が暮らしやすく、多様な魅力あふれるまち津山をめざします。

（新たな取り組みなどの例）

★（再掲）中学校体育館にエアコンを整備（災害時の避難所としても活用）

- ・避難所の環境整備（女性、高齢者、障がい者等にとって、安心して快適な避難所に環境整備）
- ・民間事業者と連携した災害対応（災害備蓄品のストックなど）
- ・災害用ドローン等機材整備

★買い物が困難な方への支援（移動販売や配達サービス）

- ・空き家問題への対応：「ワンストップ相談窓口」の設置と「空き家バンク」の活用を通じたマッチング（所有者の家財整理等も支援）
- ・空き家を活用した滞在型観光や移住交流の推進
- ・JRの運行維持と利便性向上
- ・JRや基幹バス路線と、地域内交通の連動性向上

★「ごんごバス」や乗合交通システムの改善（ダイヤ改善や運転手の確保支援）

特に乗合交通システムは、①週末の運行実施、②予約期限を前日予約から2時間前まで短縮、③自宅前まで送迎に、それぞれ改善。…ライドシェア（日本版・公共）の導入も検討

★「アルネ津山」の再活用（子育て世代や高齢者の方々が集える場所に加えて、デジタル推進センターとして最新技術の体感やスキルアップ・創業を図る、「交流・学び・創造の場」に）

★中心市街地の機能見直し（再開発事業の方向性と内容を早急に再検討）

- ・「グリーンヒルズ」の再整備（幅広い世代が集い楽しめる、魅力ある公共空間に進化）
- ・「作陽学園跡地」の有効活用、「プラザホテル跡地」の景観対応（ともに関係者と粘り強く調整）
- ・都市計画など関連計画の見直し検討
- ・都市公園や上下水道など生活基盤整備による安全安心力の向上
- ・「河辺高野山西線（北工区）」、「総社川崎線」等の整備促進
- ・主要な市道の維持補修

## 6 「歴史と文化」が薫り、新たな地域力を創造するまち津山にチャレンジ

歴史と文化、自然、食など様々な地域資源を活かす「地域人材」を育て、多様な世代の交流が広がる地域づくりを進め、誇りを胸に新たな地域文化力が生まれるまち津山をめざします。

（新たな取り組みなどの例）

★津山城址の整備と活用、「衆楽園未来への贈りもの計画」の策定

- ・入園料の見直しと「市民割引料金」の設定
- ・歴史的町並みの保存・景観整備と利便性向上
- ★「文化財保存活用地域計画」の具現化
  - ・「森の芸術祭」の開催協力と地域への経済波及
  - ・芸術文化の鑑賞、体験・発表機会の拡大
  - ・身近なスポーツの実践とプロスポーツの観戦機会の充実
- ★「未来に伝える津山の魅力」ハンドブックを作成（市民の協力を得て、歴史、文化、観光資源、祭り、津山弁、著名人などを紹介～市制 100 年に合わせて）
- ★（再掲）文化・スポーツの体験格差ゼロを目指す部活動の地域移行（本物との出会いを通じて子どもたちの夢を育む）
- ★多世代が多目的に使える「全天候型交流広場」の整備
 

市民が希望する利用形態（グランドゴルフ、子どもの遊び場など）に対応し、健康づくりと人のつながりが自然に生まれる、暮らしに身近な拠点を整備

  - ・津山グルメプロジェクトの実施（食文化の伝承を兼ねて、地域食材を使ったコンテスト、特選料理の市内外への発信など）

## 7 「次世代型の市政構築」と多様な連携で活力あふれるまち津山にチャレンジ

県内でも最低レベルの財政の再建に向け、全事業を見直し、財政調整基金を適正に維持し、市民のための市政を推進。国・県・民間との連携を強化し、多くのサポーターの力も取り入れ、市制 100 周年を市民の思いでつくる記念すべき一年に。

（新たな取り組みなどの例）

- ★本市の大きな課題である「人口減少」に歯止めをかけるため、「人口減少に挑む官民連携緊急会議」を設置し、経済、教育、医療福祉など様々な分野の関係者の共通認識のもと、効果的な対策を図る。
- ★ふるさと納税の拡大：目標 50 億円（個人・企業版のふるさと納税を大幅増額）
 

「ふるさと納税チャレンジプロジェクト」を立ち上げ、商工会議所、商工会、農業関係者、主要事業者、金融関係者等が一体となり、市民の協力を得ながら、返礼品の充実と PR の強化を進め、地域経済の活性化と寄付額の拡大を図る。

  - ・「津山サポーター」制度の導入拡大
 

ふるさと納税寄付者に加え、津山ゆかりの人や企業、学生や社会人の津山のファンを掘り起こし、サポーターの有する情熱、技術・ノウハウ、資金をまちづくりや人づくりに活用。国が検討を進める「ふるさと住民」制度とも連動。

### ○ふるさと納税や津山サポーターに対応する組織を設置

- ・官民連携のクラウドファンディング等を活用した「まちづくりファンド」を創設し、市民参加型のまちづくりを促進
- ★市制 100 年記念イベント（2029 年）
 

「つやまサポーター」や市内外で活躍している皆さんの協力のもと、斬新で魅力的なイベント等を企画
- ★（再掲）「未来に伝える津山の魅力」ハンドブックを作成（市民の協力を得て、歴史、文化、

観光資源、祭り、津山弁、著名人などを紹介～市制 100 年に合わせて)

- ・津山城跡の本丸整備（市民や津山サポーターの理解と協力を得て、研究を進める）
- ・市民が利便性を実感できるデジタル行政  
各種申請に短時間で的確に対応できる「書かない窓口」の充実や、市役所に行かなくても手元のスマホ等から手続きが可能な「どこでも窓口」の導入（「見守りスマホ」の普及のほか、教育、産業、医療福祉など幅広い分野でデジタル技術を積極的に導入し、安全安心で便利な暮らしを実現）。
- ・「美作圏域広域ビジョン（仮）」の策定を通じた広域的な行政連携  
（人口減少対策、地域医療体制、広域観光、JR 利用促進、公共施設の相互利用 等）
- ・国や県との関係強化  
これまでのハード事業の補助に加え、ソフト面の補助事業の内容研究と効果的な活用

## ◎私の思い（基本的なスタンス）

上記「7つのチャレンジ」の内容に加えて、以下5つの事柄について、私の思いを述べさせていただきます。

### ① 「アルネ津山」

アルネ津山は、単なる一つの建物にとどまらず、津山の中心市街地の役割、まちの未来の形をどう描くか、**まちづくり全体に関わる大きな課題**です。今後、多額の維持管理費が見込まれる中、原点に立ち返り、「市民の皆さまにとって本当に必要な拠点機能とは何か」を考える必要があります。

津山市の子ども保健機能の移管を含め、子育て世代や高齢者の方々が集える場、さらに、「デジタル推進センター」として最新技術の体感やスキルアップ・起業を図る場など、文化・福祉・教育・産業といった多くの分野の「交流・学び・創造の場」、「多世代の市民の皆さまの心地良い居場所」として、アルネ津山を再構築していきたいと考えています。

### ② 美作大学の公立化

美作大学はこれまで、全国から学生が集まり、地域に活気をもたらしてきた「津山の宝」であり、その存在意義は大きなものがあります。

美作大学の公立化は、教育の問題に加え、若者の定住や人材の育成、津山の将来の産業や人口減少対策にも深く関わる重要なテーマです。

昨年 11 月の有識者検討会議の提言では、美作大学の存続は公立化によって実現可能性が高いとする一方、将来的な市の財政負担リスクを伴うと指摘されています。さらに、「短絡的な視点や主観に左右されず、慎重かつ十分な議論を尽くし、地域全体にとって最適な判断」をすることが重要であるとされ、私も、提言の内容をもとに議論を重ねるなかで、理解を深めていく必要があると思います。

このため、提言で求められている「大学の魅力向上」を図るために、近い将来の**新学部設置（有力候補例：「工学」「情報・データサイエンス」「看護）」の経費もシミュレーションに加える**など、市民目線から見た分かりやすいデータをもとに、オープンな形の「市民フォー

ラム」を開催したいと考えています。

大学の学費の支援や産学官の連携を通じて、「津山で学び、津山で働き、津山で暮らす」好循環をどのように実現するのか、市民の皆様とともに丁寧に考えてまいります。

### ③ 「チャレンジ津山」

私が進めようとしている独自の「チャレンジ津山」は、「市民の働きたい意欲」と「企業の人材不足解消」をサポートして市民所得を向上。「起業などの新たな事業取組」の支援による地域経済の発展。「地域活動の活性化」を通じた地域課題の解決と地域の存続を図る。というものです。

市民の皆様、市内企業、地域団体の前向きなチャレンジを、市としてもしっかりサポートし、皆様とともに「未来に向けて躍動する津山」の実現に取り組んでいきたいと考えています。

#### ・「仕事（ワーク）チャレンジ津山」

「雇用や所得」が課題であるとの市民の皆様からの意向《アンケート結果資料》を受け、市内の仕事環境の改善や求人の柔軟化が進むよう力を入れていきます。

正規雇用が重要ではありますが、現状として、「子育て世代や高齢者、障がい者の皆様から短時間勤務のニーズが高い」中、対応が手薄になっていて求人が少ない状況があります。

このため、民間事業者やハローワークとも連携しながら、市独自の「地域版ハローワーク」の検討を進め、仕事マッチングシステムを通じて、市民の「働きたい」という意欲にきめ細かく対応、「所得の向上」を支援します。

同時に、市内企業の人材不足の解消を図るため。情報提供と相談体制の充実を図り、求人条件の弾力化や短時間勤務、リモートワークの導入を促します。

また、市役所においても、短時間勤務やリモートワークの導入を進め、希望者の副業を柔軟に認めて地域での活躍を促します。

#### ・「事業チャレンジ津山」：起業等の事業者の新たな取組みを手厚くサポート

将来に向けて地域経済の活性化を図るためには、市内企業が力強く成長し、多くの起業家が次々と生まれることが重要です。このため、技術力・競争力を高めて新事業を展開しようとする企業をサポートするとともに、子どものころから起業の意義やノウハウを伝えるなど、幅広い世代の様々な起業を支援していきます。先進地域の取組みも参考にしながら、将来的に地域の魅力が高まって若者の定着にもつながる「創造性あふれる津山」の実現をめざします。

#### ・「地域活動（アクティブ）チャレンジ津山」

人口減少が進む中、地域を維持していくためには、地域の課題を見える化し、地域内外からの協力を得ながら地域課題の解決を図る必要があります。

このため、将来的な「地域運営組織（RMO）」の形成をめざして、町内会活動のデジタル化を支援します。加えて、子ども食堂や不登校の子どもの居場所づくり、さらには地域猫対策など、様々な地域課題に対応されている団体への支援を行います。

#### ④ 民間との積極的な連携

人口減少・少子化対策などの大きな課題をはじめ、「チャレンジ津山」やふるさと納税拡大など、多くの分野で重要なパートナーとして協力して取り組んでいきたいと考えております。

また、現在、市の施設の建設や管理運営に公設民営手法を採っている例がありますが、私もこうした財政緊縮につながる手法を採用するとともに、可能な限り地元企業への発注を意識して取り組みます。さらに、個別事業についても、民間委託や民間連携を積極的に考えてまいります（例：公用車を所有からサブスクへ、災害備蓄品をスーパーでストック、道路損傷確認を営業の多い民間（宅配や電気・ガス）に など）。

#### ⑤ 事業の進め方

##### ・データを根拠に政策立案

様々な機会をとらえて、世代を超えた多くの市民の皆さんの声を直接しっかり伺うとともに、データや統計（エビデンス）を根拠に政策を立案する「EBPM」を進めます～例えば、地域幸福度調査の市民アンケートのデータ《[アンケート結果の資料はこちら](#)》から市民が不安や不満を感じておられること（雇用・所得、事業創造、移動・交通など）に優先的に対応するなど。

##### ・津山市の総合的な魅力を向上（「ハコモノ重視」から、「市民の暮らし重視」へ）

将来に向けて発展し、希望を持って活躍できる津山を実現するには、地域を牽引する「経済力」、誇りを感じる「文化力」、仕事や活動の場面が多彩で多くの人を惹きつける「暮らしやすさ」など、地域の「総合的な魅力を向上」させていく必要があると考えます。このため、「ハコモノ重視」から、市民ファーストの視点をもとに、「市民の暮らしや地域の発展を重視」し、真に必要とされる事業に力を入れる方向に、市政をチェンジします。

##### ・「アウトカム」重視の事業実施

行政事業の取組方針の段階は3段階があります。

第1段階は、予算をつけ仕組みを作って事業に取りかかる段階（インプット）。

第2段階は、事業実施過程を経て事業が完了した段階（アウトプット）。

第3段階は、その「事業の成果が実際に市民の暮らしや地域の活性化に繋がる」段階（アウトカム）です。

現在の市政は、着手率や各種協定成立に注力するなど、第1段階にとどまっているケースが多いようです。私は、第3段階（アウトカム）に結びつくことを強く意識して事業に取り組んでいきます。